

1. はじめに

水泳は、水を媒体として、克服、達成、競争など多様な楽しさや喜びを味わえる運動である。自己の泳力に応じた目標を持ち、そのめあてを克服することで喜びを感じたり、いろいろな泳ぎを身につけることで達成する楽しさを味わったりすることができる。

本学級の児童は、泳力的には、50m以上泳げる児童が4割弱、25m以上泳げる児童が2割に対し、25m泳ぐことができない児童も4割弱という状態にある。また平泳ぎのできる児童は1割に満たない。25m泳げない児童には、泳ぐことに対して「うまく進めない」といった難しさを感じている一方で、水中で活動することに対する心地よさを感じている者もいる。

そこで、「わたしたちの体育」を活用して、コースレイアウトを工夫しながら4つの活動の場を設け、児童が自分のめあてやペースに合わせて学習を進められるようにしたり、ペアでアドバイスをしやすいように、紙面を拡大して掲示物として利用したりして、児童の意欲、技能の向上を目指して学習を進めた。

2. 指導の実際

(1) 単元の計画

	1	2・3	4・5	6・7	8・9・10	11
主 な 学 習 活 動	・オリエンテーション	活動①自分のめあてを明確にして、基礎的な技能を身につける。				崎 津 選 手 権 (泳力測定)
		活動②自分のめあてにあったコースを選択し、泳力を伸ばす。 <きれいなフォームでクロールコース> <きれいなフォームで平泳ぎコース> <リズムをとってロングスイムコース> <リズムをとってスピードコース> ・ミニ記録会 ・ミニ記録会				

(2) 指導の工夫

○ペア活動

全ての活動をペアで行った。「キックをする側」、「補助をする側」、「泳ぐ側」、「ついて見る側」を交代しながら活動した。身振りや、言葉でお互いの泳ぎについて指摘し合い、聞いたことを意識して次に取り組むという活動を行った。



○アドバイスボードの活用

「わたしたちの体育」の拡大版を掲示して、上達のポイントが視覚的に分かるようにした。ペア活動で教え合う時の補助になるよう、コース脇の児童が通る場所に設置した。

○場の設定

「わたしたちの体育」の場の設定例をもとに、児童の実態に合わせてプールを4つのコースに区切った。25mのコースを4コース、残りの3コースを12.5mで区切って、広い空間を作り、活動しやすい空間を確保した。



3. 成果と課題

- 2.5m泳ぐことができる児童が増え、泳げない児童が4割弱から1割に減った。
- ペア活動を積極的に取り入れたことで、言葉で体の動かし方を伝え合うことができた。人に伝えることで、自分の頭で体の動かし方をイメージできるようになり、基礎的な技能の習得が深まった。また、泳ぐことに抵抗を感じている児童も、ペアで泳ぐことで意欲的に活動できた。
- 「わたしたちの体育」の挿絵を拡大して、上達のポイントを掲示したことで、お互いの泳ぎ方について、「ここがこうなっている。」など、具体的にアドバイスをし合えるようになった。
- 「わたしたちの体育」の感想欄に、成果と感想を書く時間の確保が難しかった。短時間でふり返りができる方法を考えていきたい。